

## 平和を語る市民のつどい

【日時】令和4年7月24日（日）13時30分～16時00分

【場所】川崎市平和館（川崎市中原区）

【主催】川崎市

【共催】川崎市人権啓発活動地域ネットワーク協議会

令和4年7月24日（日）、川崎市平和館において「平和を語る市民のつどい」が開催されました。この「平和を語る市民のつどい」は、昭和57年、川崎市が「核兵器廃絶平和都市宣言」を制定して以来、毎年開催されています。

今年は、過去の戦争体験に触れ、最新の国際情勢等を理解することにより、市民が平和について考えるきっかけを創出し、平和な地域社会の実現に向けた意識の高揚を図ることをテーマに開催されました。

主催者及び共催者挨拶の後、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECN A）准教授の中村桂子氏に御講演いただきました。最新の国際情勢に関する分かりやすい解説と共に、核兵器廃絶に向けて、市民の力で国際社会を動かしていくことができるのかという切実な問題について、現実的な視点からお話を頂きました。

講演の最後には、BB弾を使った核弾頭の実演をしていただき、世界に存在する核弾頭12,720発の音を体感させてもらうことができました。



続いて、中高生による討論及び発表が行われました。中村先生の司会進行により、核兵器廃絶を題材とした「非人道的だと分かっている核兵器がなぜなくなるのか」及び「核軍縮・廃絶に向けて進むためには私たちは何をすべきか」の2つのテーマを討論の上、発表していただきました。

川崎高等学校、はるひ野中学校、東橘中学校及び宮前平中学校の生徒20名が各学校ごとに4班に分かれて討論しました。生徒一人一人が真摯に取り組み、班で導き出した結論はどれもすばらしく、とても感銘を受けました。

